

女性と水：政策、プロジェクト、その影響

Bhawana Upadhyay（ネパール）

ネパールでは働く女性の大多数、93.7%は農業に従事しています。灌漑農業への女性の貢献は、男女平等とエンパワーメントに向けて活動している両団体の取り組みのおかげで最近徐々に認められるようになってきました。最近では、農業展望計画（APP）がジェンダー問題を最優先課題と位置づけ、重要な実施戦略の一つであるとの認識を示しました。APPはこの計画のあらゆる面でジェンダー問題を取り上げただけでなく、加速する拡大成長の流れに女性をどう取り込んでいくべきかについても詳述しています。具体的には、APPはその狙いとして、女性に対する生産資源の供給と信用貸付を増加させること、所得の創出と販売活動に女性を積極的に取り入れること、そして現在推進している発展の機会を男性と女性の両方が確実に利用できるようにすることを掲げています。

また、第9次計画のなかでは、家事や農業など、女性が仕事をする際の手間を減らすような技術を生み出す研究活動の重要性について明確に指摘されています。ここでは、女性の農業従事者たちが簡単に習得できるような技術を特定し、推奨する必要性についても強調されています。農業にジェンダーの主流化という問題を組み入れるという課題に取り組むために、APPは次のような具体的な戦略を策定しています。

- ・ 水利用者団体への女性の参加
- ・ 灌漑システムの組織化と管理のためのトレーニングへの女性参加者の増加
- ・ 家事や労働における女性の仕事量を減らす一助となるような技術の考案
- ・ 女性農業従事者もとりこんだ女性雇用の増加と事業所や専門家の拡大
- ・ 女性向けの灌漑ローンに対する高額の助成金の拠出

国際開発機関／ネパール（IDE/N）は米国に本部をおく国際的な非営利組織で、農産物の生産性の向上によって農業従事者の所得を増加させるような低価格の技術の開発および販売を行っています。IDEは1998年からネパール西部のパルパ地方の村落で、小規模農業の従事者、特に女性が高価値の野菜の栽培で所得を増加させ、それによって生活水準を上げるのを支援するという視点で活動を進めています。IDEは農業従事者に、小規模な灌漑技術の下で農耕を行う自助グループを作るよう働きかけています。IDEは家族のメンバー一人ひとりの貢献の価値を認め、手に入れた利益は平等に分配するべきだという信念を持っています。このような戦略を前面に押し出しながら、IDEは主な活動3つを行っています。農業従事者、特に女性グループの能力の構築、野菜生産量増加の推進、個人事業者と商業団体との販売を目的とした連携の創出です。いくつかの女性グループと活動をしながら、IDEは道具一式の設置や種子の貯蔵、野菜の栽培、有機農法に焦点を据えた保護などを盛

り込んだトレーニングを提供することで、女性たちに動機付けをしています。

IDE のプロジェクト介入以前は水不足のために、野菜を栽培したことがある家庭はごくわずかしかありませんでした。IDE の介入後、プロジェクトによって湧き水を村に引き込む水路が作られると野菜の栽培が一大ブームとなりました。小規模灌漑技術を導入した女性たちは、現在商業用野菜生産者となっています。かつて女性たちは生産的な仕事をせず、無報酬の労働者として家業の農業を手伝っていました。IDE の支援のおかげで、それまで雨水だけを頼りにし、モンスーン以外の季節には休耕地になっていた土地に水を引くことができるようになりました。

毎日の仕事を徹底的に分析した結果、この技術の導入によって女性の仕事量が減っていることが明らかになりました。それまで女性は遠く離れた場所から水を汲んで来ていました。水を汲むのに 1 時間半から 2 時間かかり、その水を農地に撒くのにさらに 1 時間半から 2 時間が費やされてきました。今ではこの辛い仕事の 75% が、技術のおかげで削減されています。従来のシステムと違い、今では手作業で水を撒く必要もありません。女性たちは節約できた時間を有効利用して、自助グループを作ったり、預金貸付の口座を運用したり、生産的な目的に充てることができるようになったのです。こういった変化によって、読み書きのできない農村部の女性たちが前に一步踏み出し、自分たちの権利を知り、自分たちの持つ潜在能力を見つけだし、必要な時には声をあげて発言するということにつながっていくのです。

このように野菜の栽培という支援を受けることで、農村部の女性たちは家族の摂取する栄養を確保しただけでなく、経済的に強い力も得ることができました。有機農法、改良された種子を用いた改良農法、肥料の適切な使用などによって生産性は向上し、より安全な食品をつくりだすことができるようになりました。小規模の灌漑の導入によってよりよい農法や貯水法を用いるようになり、天然資源をより持続可能な方法で利用できるようになったのです。

このうえさらに政策や魅力的なプログラム、実施戦略といった書類を作成する必要ないと私は思っています。成功の鍵を握っているのは、政策やプログラムを適切に実施することです。これまでの経験から、コスト効率がよく、操作やメンテナンスが簡単で、必要とする労力が少なく、ジェンダーの問題に配慮されており、環境に優しいテクノロジーが導入されれば、それは人間の生活にも天然資源の持続可能な利用にもプラスの効果をもたらすということがわかりました。